

# 企業の実例から考える喜びを

## 学生と対話重ね

### 一人一人の「解」引き出す

経営やマーケティングの基礎を学ぶ、「経営管理論」。競争戦略やリーダーシップ、チームビルディング、財務など、テーマは多岐にわたる。長崎総合科学大総合情報学部の藤原章准教授は、理論とビジネス経験を併せ持つ「実務家教員」と自身を表現。企業の実例を基に経営について考える「ケースメソッド」を講義の中核に置き、学生の実戦力を磨き上げているという。「生きた情報から解を導き、学生に考える喜びを感じてほしい」。そう狙いを語る。

半年にわたる最後の講義があった1月下旬。この日は、フィットネスクラブを運営する大手グループが力を入れる「小型フィットネスジム」をテーマに選定。ジムの概要や現状について説明した後、藤原准教授は「県内の空き店舗などで活用するアイデアを考えてほしい」と学生に投げかけた。

しばらくした後、藤原准教授は学生の近くに座り、「どうすれば人が多く入ると思う」「学校の近くにあったら行ってみたいか」と質問しながら教室内をくまなく回った。

藤原准教授は「経営には正解がない。学生の数だけ解があり、個性」と捉える。うまく表現できない学生もいるため、一人一人と向き合い、引き出せるように対話を重ねる。あくまで重視するのは、自分で答えを探す姿勢だ。将来像を見据えて数十年後の姿を想像し、課題に向き合えば、必ず人生にも役立つと信じている。

これらの考えの背景には、地方銀行員時



学生の近くに座り、対話を重ねる藤原准教授（左奥から2人目）

長崎総合科学大

代の経験がある。約30年間、多くの経営者と向き合い、事業に込めた思いや悩みに直接触れた。「理論やデータも大切だが、経営は人との出会いが最も重要」という、自分なりの「解」を導き出した。

だからこそ、すべての講義で伝えたいことは共通している。「ありがとうは有限で

ある」「出会いは奇跡であり、軌跡となる」「つまずくことを恐れるな」一。藤原准教授は「人に感謝でき、出会うべくときに会おうべき人に出会い、転んだとしても立ち上がるチャンスに気付いた人が強い。社会や経営で重きを置くべきは『人』だ」と強調する。

（戸羽信介）

## 略歴



長崎総合科学大学総合情報学部  
総合情報学科マネジメント工学コース 藤原 章准教授

ふじはら・あきら 長崎市出身。西南学院大学法学部法律学科卒。県内の地方銀行で働きながら、長崎大大学院経済学研究科博士後期課程修了（経営学）。2019年に長

崎総合科学大に着任。学長特別補佐やオープンイノベーションセンター長を務める。趣味は約30年通うフィットネスジムとストリートダンス、筋トレ。

## ◆佐世保高専が学科新設へ準備

佐世保高専（佐世保市沖新町）は、人工知能（AI）やメタバース（仮想空間）などのデジタル技術に対応する情報系に特化した「情報知能工学科（仮称）」を2025年度に新設する準備を進めている。ほかの3学科も改組して情報系を強化し、総合型選抜（旧AO入試）を導入する方針。進展するデジタル技術分野で活躍できる人材を育成する。

「情報知能工学科」は現存の「電子制御工学科」を廃止して設置。情報系に特化したカリキュラムを充実させ、情報処理や通信ネットワークなどの技術に加え、情報システム全体のデザイン力や技術開発力を備えた人材を育成する。

## ◆県と長崎大、民間が脳卒中・心臓病予防で協定

県と長崎大、県内外の企業9社は「脳卒中・心臓病等の予防及び医療提供体制に関する協力協定」を締結。1月11日、大石賢吾知事や永安武学長、各企業の代表者らが長崎市内に集まり、情報発信などで協力していくことを確認した。協定締結は昨年12月1日。

健康寿命を延ばすため、県は2021年度に循環器病対策推進計画を策定しており、協定によって脳卒中や心臓病などの予防や正しい知識の普及啓発を進めたい考え。9社は医療や製薬、生命保険など。

長崎大は昨年9月、長崎大学病院に「脳卒中・心臓病等総合支援センター」を設置。患者や家族をサポートしている。

トピックス